

令和元年 6 月

## 普及活動報告

### ～高品質な実エンドウの出荷に向けて ～ 出荷目合わせ会を開催

(京丹波町：3日)



出荷規格を確認

参加者は、持ち寄った実物を前に出荷規格を確認しました。普及センターから、長期間の出荷に向けた追肥の方法や、ほ場の水分管理の注意を呼び掛けました。また、近年発生が目立っている病害虫について、特に発生が心配されるうどんこ病対策を中心に説明しました。

生産者同士で「今年は奇形莢が多く見られる」「霜の被害があった」など、情報共有も活発にされていました。今後も普及センターは、高品質の実エンドウ生産のため支援していきます。



今後の栽培管理について説明

場 所 JA京都瑞穂支店  
出席者数 12名

瑞穂地区 実エンドウ生産者 10名 (昨年度：生産者10名、出荷量約1.4t)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告

### ～紫ずきんの安定生産を目指して～ 生分解マルチを使った栽培実証を開始 (京丹波町：4～6日)



トラクタによるマルチ張りの様子



定植とかん水作業

昨年の不作の反省から、排水の徹底や適期の土寄せなど基本技術を着実に実施するとともに、土壌水分の安定と雑草対策の効果が高く、また使用後の処分が容易な生分解マルチを利用した栽培実証に取り組みました。

生分解マルチは、慣行マルチに比べ裂け易いため、ほ場に張る際の作業スピードに注意が必要でした。普及センターでは、引き続き経営的な評価を行い、生産農家を支援していきます。

場 所 京丹波町実勢  
出席者数 12名

せいぶんかい  
※生分解マルチ…使用後に土にすき込むことができるため、回収の労力と廃棄コストが軽減できる

平成30年度 南丹管内の紫ずきん生産者：198戸  
作付面積：2,852a

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告



黒大豆播種の様子



FOEASの使い方を確認

### ～地下水位制御システム (FOEAS) の導入効果を検証～ 黒大豆の播種が行われました (亀岡市：6日)

黒大豆の栽培において、多収・高品質を確保するためには、土壌水分の管理が重要です。今回、地下水位を自在に制御できる技術として注目されている地下水位制御システム (FOEAS) が導入されたほ場 (65a) で、黒大豆の播種が行われました。

ほ場を管理する法人は、「FOEAS施工ほ場は土壌がよく乾き、作業もしやすくなった。今後も適切に水管理を行い、収量向上につなげたい」と話されていました。普及センターは、生育及び収量調査、作業性の聞き取り等を行い、FOEAS導入効果の確認を通じて農家を支援していきます。

場 所 亀岡市保津町

当該ほ場は今年1月に施工  
全85a、黒大豆の他にキャベツを作付け

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告



刈取時期を迎えた小麦ほ場



外観などを確認

### パン用小麦品種「せときらら」の適期刈取に向けた現地巡回を実施

(全域：6日～)

小麦は水稲と同じで、ぬれた状態で収穫すると機械が目詰まりしてしまうため、好天時に刈取る必要があります。一方で、作物の特性として収穫時期が入梅期になることから、その判断が重要です。そこで、関係機関とともにほ場を巡回し、外観や子実の固さ、子実水分などを調査し、栽培ほ場毎に収穫適期を予測しました。

普及センターは、生産者に予測内容を伝え、適期収穫を奨励することで、良質な小麦生産を支援しました。刈取は6月下旬まで続きます。

場 所 管内小麦ほ場

管内小麦生産者数：10戸、栽培面積：39ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告

### ～黒大豆、黒大豆枝豆の栽培と病虫害防除を学ぶ～ 京都丹波就農サポート講座（第3回）を開催

（全域：11日）



黒大豆、エダマメの栽培方法を説明

前半の講義は南丹地域の特産物である黒大豆・黒大豆枝豆の栽培技術について、後半は南丹地域の特産物を中心によく見られる病虫害の発生時期、防除のポイントについて、写真を使用し解説しました。

受講生からは、「自分も黒大豆枝豆を作付けしているが、より深く理解できて良かった」「時期ごとの病虫害の種類や発生条件をもっと知りたい」などの感想が聞かれました。普及センターは引き続き、第10回の最終回まで、受講生が農業の基礎技術を習得できるよう支援していきます。



病虫害の防除方法を解説

場 所 園部総合庁舎

出席者数 21名

今年度の受講者数は18名（うち障害者就労支援事業所の指導員4名）、平均年齢37才

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告

### ～タマネギの省力化栽培を目指して～ 国営ほ場整備に向けた現地実証試験を実施 (亀岡市：9～16日)



収穫機を用いたタマネギ収穫作業

曾我部町の4集落（春日部、犬飼、南条、中）では、過去に栽培の実績があるタマネギをほ場整備後の推進作物と位置付け、規模に適した機械化省力栽培体系の確立に向け、収穫機の実証を行いました。

参加者からは「作業時間が大幅に短縮でき、作業も楽だった」との意見が多かったため、作業体系に組み込むことになりそうです。

普及センターは、今後、コンテナ乾燥の実証にも取り組み、省力化栽培体系の確立に向けて支援していきます。

場 所 亀岡市曾我部町

出席者数 25名

亀岡市曾我部町における国営ほ場整備面積：約177ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告



先進農家のほ場を見学

### ～先進農家を視察～ 第1回京都丹波有機農業サロンを開催

(全域：18日)

南丹普及センターでは、有機農業の実践者と、それを志す方の緩やかなネットワークづくりを目的に、毎年、現地見学会や研修会を開催しています。

今回は、京都市左京区大原の先進農家を視察し、ほ場管理の方法を中心に学びました。

参加者からは「丁寧な説明で分かりやすかった」「今度は加工についても詳しく聞きたい」との感想が寄せられました。今年度は、参加者の要望に応える形で、時期を変えて同じ生産者の視察を行うこととしています。また次回は、視察先の近隣で有機農業を実践する農業者と南丹管内からの参加者との交流会もあわせて予定しています。

場 所 ヴィレッジトラストつくだ農園  
(京都市左京区大原)

出席者数 32名

京都丹波有機農業サロンは、南丹管内の有機農業実践者、志向者が参加し、年2回開催

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告



中干しの目的、方法を説明



この後、全員が2株以上の茎数を計測

### ～適正な穂数の確保に向けて～ 「京の輝き」中干し研修会を開催

(亀岡市：19日)

酒造会社から増産を求められている「京の輝き」は、適切な茎数を確保することが重要であり、そのための技術として、この時期に「中干し（約2週間水田の水を落とす）」を確実に行うよう呼びかけています。当日は、普及センターから中干しと茎数確保の意義を説明し、JAから契約数量を報告した後、参加者全員が実際に水田に入って茎数を計測し、中干し開始予定日を決定しました。

参加者からは、「6月に入ってから田植えでの注意点は何か」「中干し開始が遅れた場合の影響は」など、生産に対する熱意が感じられる質問が多く出されました。

亀岡市の他、南丹市、京丹波町でも中干し研修会を開催します。

場 所 亀岡市大井町

出席者数 12名

令和元年産 南丹管内「京の輝き」作付面積：67a（昨年度は 61ha）

京都府南丹農業改良普及センター



令和元年6月

## 普及活動報告

### ～来年以降の結実を見据えて～ 南高梅の夏季剪定指導を実施

(京丹波町：26日)



夏季剪定について説明

今春、南高梅の結実が芳しくなかったことを受け、来年以降の改善を図るため夏季剪定指導を行いました。来年の花芽が分化する8月中旬までに、樹冠内部にまで日光を当てるよう呼び掛けました。また、発生が目立ってきている病害虫の防除について説明しました。

生産者からは、「今年の結実が少なかった理由は何か」「収穫しやすい場所に結実させるにはどのように剪定すればよいのか」といった質問があり、今春は開花が例年より早く、受粉に必要な虫が飛ぶタイミングが合わなかったことや、着果を促す剪定方法などを説明しました。今後も普及センターは、良質な梅生産を支援していきます。

場 所 京丹波町下大久保  
出席者数 4名

下大久保梅園は植栽本数約240本、集落で管理

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 6 月

## 普及活動報告

### 新規商品開発のヒントを学ぶ～南丹農村女性・加工研究会が視察研修会を実施～ (全域：27日)



薬膳について講演を聴く会員

地域で薬膳レストランを経営するNPO法人関係者から、五味五性や旬の食材の身体への働きについて講演をいただき、食と健康の関わりを理解を深めました。併せて、農産加工に欠かせない包丁の研ぎ方について学びました。

会員からは、「健康面も考慮し、野菜の種や皮まで使った加工品を考えていきたい」「切れ味のよい包丁で切った食材は食感がなめらかでおいしく感じる」との声が聞かれました。普及センターは引き続き、農産物加工活動を支援していきます。

場 所 森のステーションかめおか  
出席者数 29名



包丁研ぎの実演に見入る会員

南丹地域農村女性・加工研究会：令和元年会員数54名（6月現在）

京都府南丹農業改良普及センター